

お取引先さま各位

## カカオ・チョコレート週刊ニュース 59号

2013/07/29 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

### 1、市況の動き：先週の高騰から上値は重く、均衡状態でやや下への方向感

|   |                                    |
|---|------------------------------------|
| ①週最高：LDN 市場 £ 1,589 / NY 市場 \$2,360 (7/23、7/24)         | 先週比 <b>LDN - £ 20 / NY - \$4</b>   |
| ②週最低：LDN 市場 £ 1,567 / NY 市場 \$2,333 (7/25)              | 先週比 <b>LDN + £ 22 / NY + \$112</b> |
| 週内価格差額 (①-②)：LDN 市場 £ 22 (傾向→) / NY 市場 \$33 (傾向→)       |                                    |
| 週内建玉推移：LDN 市場 211958 枚 (7/19 終了時) ⇒ 218248 枚 (7/25 終了時) | <b>-6,290 枚</b>                    |
| NY 市場 173937 枚 (7/19 終了時) ⇒ 178787 枚 (7/25 終了時)         | <b>+4,850 枚</b>                    |

#### 【7月22日(月)】反落、調整売りで

反落。最近の上昇を受け、調整売りが先行した。

ニューヨーク市場の9月きりは、16ドル(0.7%)安の2348ドルで終了。スティール・バイン・インベストメント(シカゴ)の最高投資責任者(CIO)のスペンサー・パットン氏は「買われ過ぎの状況にあり、調整売りが入った」と指摘した。

第2四半期における北米のカカオ豆圧砕高は、予想を上回り、3年ぶり高水準を記録した。

ロンドン市場の12月きりは、17ポンド(1.1%)安の1582ポンドで引けた。

#### 【7月23日(火)】反発＝西アフリカの乾燥天候で

反発。西アフリカの乾燥天候で2013～14年度のメインクロップの収穫量が減少するとの懸念に下支えされた。

ニューヨーク市場の9月きりは11ドル(0.5%)高の2359ドルで終了。先週末19日には2377ドルまで値を上げていた。

RJOフューチャーズのヘクター・ガルバン氏は「相場はこの上値を試そうとしている。4月下旬以降、2375～2380ドルを突破できないでいる」と指摘した。

ロンドン市場の12月きりは7ポンド(0.4%)高の**1589ポンド**で取引を終えた。

【7月24日（水）】ニューヨーク、小幅続伸＝ロンドン、反落

ニューヨーク市場の先物は小幅続伸。西アフリカの乾燥した天候により、2013～14年度のメインクロップの収穫量が減少するとの懸念が支えとなった。9月きりは1ドル（0.04%）高の**2360ドル**で終了。西アフリカの乾燥した天候のほか、コートジボワールでの先物売りが予想より増加したことが支えとなった。6月12日以来の高値となる2377ドルを前週末に一時付けた後、2400ドルとチャート上の上値抵抗線近くを推移している。

ロンドン市場の12月きりは1ポンド（0.06%）安の1588ポンドで引けた。

【7月25日（木）】ともに反落＝テクニカルな買いで一時は高値に。

ニューヨーク市場の先物は反落。ただ、米ドル安の進行によって、他の通貨に対して割安となったドル建て商品が相場を支えた。

9月きりは13ドル（0.6%）安の2347ドルで終了。テクニカルな買いが入り、一時は6月12日以来の高値となる2381ドルまで上昇したが、2350～2400ドルのレンジで強い抵抗に遭った。

RJOフューチャーズ（シカゴ）の上級市場ストラテジスト、ヘクター・ガルバン氏は「天候が乾燥しているだけでは上値を超えるのに十分だとは思わない。別のきっかけが必要だが、今のところ、それはどこにも見当たらない」と述べた。

西アフリカの天候の乾燥に対する懸念は、最近のココアの値上がりに影響しているとみられる。コートジボワールとガーナでの生産増と需要の弱さが見込まれることから、以前の予想よりは小規模なものの、2013～14年度にココアが供給不足に陥る見込みだ。ロンドン市場の9月きりも4ポンド（0.3%）安の1591ポンドと、反落して取引を終えた。12月きりは1582ポンドだった。

【7月26日（金）】両市場とも続落

ニューヨーク市場の先物9月きりは続落し、14ドル（0.6%）安の**2333ドル**で引けた。世界第2のココア生産国ガーナの売りに引きつけられ、過去2週間は上昇していた。

ロンドンに拠点を置くブローカーは「今週はガーナ産の売りが多少出ている、価格は少し高い」と述べた。また、ガーナ産の新穀は先渡しで約45万トン売られているとの見方を示した。

ロンドン市場の12月きりも続落し、15ポンド（0.9%）安の**1567ポンド**で終了した。

## **2、14年のカカオ豆圧砕高、前年比25%増に＝インドネシア・ココア産業協会(7/23)**

インドネシア・ココア産業協会は23日、2014年の同国カカオ豆圧砕高が前年比25%増の50万トンに達するとの見通しを示した。

また、13年の同国カカオ豆圧砕高予想を40万トンとし、従来予想（36万トン）に比べ4万トン上方修正した。

同国のカカオ豆圧砕能力は今年中に同21%増の70万トン、14年には74万トンに増強される見込み。一方、14年のカカオ豆生産高は前年比5%増の50万トンと予想した。

### 3、ブラジル産カカオ豆前年対比57%減少に(7/23)

ブラジルのバヒア商業組合が発表した統計により、ブラジルの主要なカカオ生産地から集荷された数量と海外から輸入されたカカオ豆の数量の合計が2013年5月1日～7月21日までの合計で前年の同期間と比較し、57%の減少となったことが判明した。

下記は2013/2014シーズンと、2012/2013シーズンの其々統計資料である。

《2013/14 着荷数量 単位 60-KG 袋 期間 ; 5月1日～7月21日》

| <u>地域</u>     | <u>前週</u> | <u>合計</u> |
|---------------|-----------|-----------|
| Bahia         | 31,616    | 439,096   |
| Other states  | 36,756    | 246,702   |
| Other nations | 0         | 0         |
| Total(袋)      | 68,372    | 685,798   |
| Total(トン)     | 4,102     | 41,148    |

《2012/13 着荷数量 単位 60-KG 袋 期間 ; 5月1日～7月21日》

| <u>地域</u>     | <u>前週</u> | <u>合計</u> |
|---------------|-----------|-----------|
| Bahia         | 79,683    | 985,671   |
| Other states  | 29,189    | 443,763   |
| Other nations | 48,471    | 167,040   |
| Total(袋)      | 157,343   | 1,596,474 |
| Total(トン)     | 9,441     | 95,788    |

### 4、2013/2014 シーズン見通し : 62500 トンの供給不足(7/24)

コートジワールやガーナなどの主要なカカオ生産国での2013年新物の生産数量が増加する見込みを受けて、供給不足の幅が小さくなる見込みになりつつあるが、変わりやすい需要によりカカオ豆の価格は現在の価格レベル付近を維持するだろうとトレーダーやアナリストなどの業界関係者は予測している。

カカオ豆からココアバターやココアパウダーを製造する磨砕工場の業界における過剰製造設備はカカオ製品の価格を押し上げる要因になるが、一方で今後、この業界の合理化に拍車がかかる可能性があるとして業界関係者は考えている。

今年の前半は、チョコレートメーカーが減少したココアバターの在庫の補充を行う為にカカオ豆の需要が一気に上昇した。

『ココアバターの在庫補充のサイクルは終了し、今後は落ち込んでいる欧州と北米の純粋な需要をひきつける為にココアバターの価格は下がるかもしれない』あるファイナンスアドバイザーは言う。

『2013年の後半アジア産のココアパウダーの需要は上昇するであろうが、その上昇があったとしても、ココアバターと、ココアパウダーの平均レシオは磨砕業者にとって十分なリターンの見込めるものには

ならないであろう』

業界関係者は世界最大の 카카오豆生産国であるコートジの 2013/2014 シーズンの生産数量は現在の 2012/2013 の生産数量見込みの 140.5 万トンを上回る 153 万トンに増加すると予測している。

第 2 位のガーナも現シーズンの 80 万トン見込みから、来シーズンは 84 万トンに増加の予測である。

世界的な景気の不確実性が需要を減らしている状況はあるが、現在、2013/2014 の世界の 카카오豆の需要は生産数量を 62,500 トン上回る見込みであり、引き続き、不足数量は前回の業界関係者への調査時の予測の 10,000 トン以下の数字となっている。

価格は今後底堅く維持されるとみられており、2014 年に入ってから僅かに和らいでいくであろう。

## 5、カカオ磨砕業者の現状と今後の合理化による影響(7/24)

昨年多くの磨砕業者が低いマージンを理由に生産数量調整を行った後、今年の 1 月より季節的な需要を背景にしてアジア産のココアバターのレシオは約 12% 上昇し、ロンドン先物価格に対して 2.0 以上のレシオまで高騰した。

欧州のココアバターのレシオも同様に上昇したが、磨砕業者は弱いココアパウダーの需要の圧力を受けている。トレーダー筋は、低い収益性により業界全体が圧縮されていることが、多くの磨砕業者にとって大きな問題になっていると説明している。

『カカオ磨砕業界に存在している世界的な製造キャパシティの過剰によって需要の上昇もあまり意味をなさないだろう』米国のディーラーは言う。『バターとパウダーの平均レシオは業界全体の更なる合理化がおこなわれない限り、圧力を受け続け低く調整されるだろう』

今年、世界最大のチョコレートメーカーであるバリーカレポー社がシンガポールを拠点にするアジアでカカオ磨砕工場を運営しているペトラフーズ社のカカオ豆磨砕事業を 8.6 億ドル (≒860 億円) で買収・合併した後から、いくつかのカカオ磨砕業者間の合併等の合理化策の予測がされ始めている。

その 1 つは、ADM 社がココア事業の売却を計画している件で、磨砕業者の間ではこの動向を注視している。

『今後の 2-3 四半期の内に工場の閉鎖やラインの統廃合などを通じて余剰の磨砕キャパシティのかなりの大きな部分が減少させられることになるだろうと予測している』フランスにあるトレーディング会社のディーラーは話す。

『この合理化に向けての動きは特にアジア市場で強く、この動きはココアパウダーの価格の回復を導き、ココアバターの価格も同様に上昇させ、平均レシオの上昇を支援するだろう』

カカオ豆の価格は一方で、コートジが新物のカカオの大部分を先物で販売するコートジの販売戦略から構造的な価格の支援を受けることが可能である。

『コートジの先物販売が行われることで、カカオの先物市場では大量の“ヘッジ売り”が生じ、その後ポジション解消の為の“売り”が生じ、結果的にこの構造的なヘッジ売りの圧力は和らいでいく』あるファイナンシャルアドバイザーは説明する。

コートジは 6 月末までに既に 2013/2014 シーズンのカカオ豆を 750,000 トン販売したと財務大臣と産業管轄組織は発表しており、全体の生産予測数量の 80% までは早急に販売する予定であるとしている。

今週の関連記事) T P P マレーシア会合閉幕＝「後発」日本に交渉余地―関税、知財分野は難航(7/25)

マレーシアのコタキナバルで開かれた環太平洋連携協定（T P P）の交渉会合は25日午後（日本時間同）、11日間の日程を終了、閉幕した。閉幕後の記者会見で参加12カ国の首席交渉官は、関税撤廃を扱う「市場アクセス」や、特許・著作権を含む「知的財産」などの分野別交渉が難航していると表明した。こうした状況を踏まえ日本の鶴岡公二首席交渉官は「実質的な議論に加わることはまだまだ可能だ」と述べ、後発参加の日本に交渉の余地があるとの認識を強調した。

23日午後にT P P交渉に合流した日本は2日半にわたり、米国などの先行参加11カ国と集中的に協議し、日本の基本的な立場を説明した。鶴岡首席交渉官は会見で、コメなど重要農産品について関税撤廃の例外扱いを求める日本の考えが各国に伝わっていることを「確認した」と指摘した。

また、今回会合についてはこれまでの交渉経緯に関する先行11カ国の説明を聞くことが主たる目的だったと説明。「本格的な交渉の場は今後設定される」として、8月の次回会合を念頭に、具体的に主張を展開するための準備を急ぐ意向を示した。

議長国マレーシアは声明で、「知的財産」「環境」など3分野の交渉では「困難な課題」が存在すると指摘。加えて工業品と農産品、繊維の関税撤廃をめぐる「市場アクセス」分野も難航しているとして、「交渉を加速させるための作業計画に各国交渉官が合意した」と発表した。T P P交渉の次回会合はブルネイで8月22～30日の日程で開かれる。

**\*特徴的なチョコレートを毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて毎週配信しております！！こちらは何卒、ご愛読頂きますようお願い申し上げます。**

\*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

〈お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先〉

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5783-3545      w-ikuta@tachibana-grp.co.jp